

17	刈谷	刈谷市立富士松南小	カワハラ モエコ 名前 川原 萌子
分科会番号	01a	分科会名	国語教育 (文学その他)

研究題目 叙述を基に中心人物の気持ちの変化を読み取り、表現することができる児童の育成
～5年国語科「走れ」の実践を通して～

研究要項

1 主題設定の理由

本学級の児童は、物語など、本を読むことが好きな子が多い。「こわれた千の楽器」の学習では、意欲的に読み進め、文中の「いや、できるかもしれない。いやいやきつとできる」「十がだめなら十五で十五がだめなら二十で、一つの楽器になるんだ」という会話文から、壊れた楽器たちの気持ちが、前向きに大きく変化したことに気付いた。音読発表会ではそれを生かし、ピオラの台詞の声をだんだん大きくしたり、強くしたりし、工夫してみんなで音読することができた。一方、短い言葉で考えを言うことはできるが、理由を問われると言いきれずに終わってしまう姿が見られる、適切な言葉で表現できないことや、自分の言いたいことが明確でないために、国語の授業の話し合いが苦手と感じている児童が多い。

本教材は、走るのが苦手で、家族に自分の思いが言えない「のぶよ」、幼さからまだまだ母に甘えたい「けんじ」、夫が亡くなり、家族を支えるために朝から仕事で忙しい「お母ちゃん」の、心のすれ違いが描かれている。走ることが憂鬱で仕方なかった第一場面の「のぶよ」が、第四場面では笑顔で走れるようになるという変化が分かりやすい物語である。また、「朝の日差し」「午後の競技」など、時を表す言葉で、場面転換も分かりやすい。山場では、刻々と変化する「のぶよ」の気持ちが心内語などで表現され、心情の変化を捉えやすい物語でもある。

以上のことから、この「走れ」を通して、叙述を基に中心人物の気持ちや変化を読み取り、自信をもって表現することができる児童に育てたいと思い、実践をした。

2 目指す児童像

児童の実態に基づき、目指す児童像を次のように設定した。

児童像

- ・登場人物の様子や行動、気持ちを表す言葉に着目し、根拠をもって、心情を読み取ることができる児童
- ・中心人物の気持ちの変化を、複数の場面の叙述を結び付けながら、表現することができる児童

3 研究の仮説

目指す児童像に迫るために、次の仮説を立てて、研究を進めることとした。

【仮説1】

- ・一人読みや対話活動において、言葉に着目することで登場人物の様子や行動から中心人物の気持ちの変化を読み取ることができるだろう。

【仮説2】

- ・対話活動において、作者の目線で考えることで、中心人物の気持ちの変化を情景や場面の移り変わりと結び付けて表現することができるだろう。

4 仮説に対する具体的な手だて

(1) 仮説1に対する手だて

手だて① 言葉に着目して考えを表現できる「感情シート」

場面ごとの学習では、「感情シート」を作りながら進める。「感情シート」とは、「のぶよ」に関わる描写に含まれる「言葉」と、その「言葉」から分かる「のぶよ」の気持ちを書きためるシートである。自分の考えの根拠を明確にすることができ、その後の対話活動において主体的に関わることができる。対話後には、交流で得たことも考慮しながら「のぶよ」の心情の揺れを「感情シート」に「・(点)」で表現していく。最後に全四場面の「感情シート」をつなげると、物語を通した「のぶよ」の心情を視覚的に捉えることができ、中心人物の気持ちの変化を読み取ることができるだろう。

手だて② 物語の山場について、考えをまとめるワークシート

「感情シート」の「言葉」を手掛かりに山場を考える。「のぶよ」の気持ちの大きな変化とその理由をワークシートにまとめることで、登場人物の様子や行動の叙述の工夫を実感することができ、より深い読み取りができるだろう。

(2) 仮説2に対する手だて

手だて③ 山場をより盛り上げる工夫について考える場を設ける

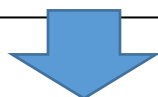
作者の立場になって考える場として、山場をより盛り上げる工夫について発問する。工夫を考えることで、中心人物の気持ちの変化を情景や場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しながら考えることが必然的にできるようにする。

5 抽出児童Aについて

本研究の手だての検証のため、抽出児Aを設定した。抽出児の実態と研究における期待する姿は以下の通りである。

<今の姿>

- ・児童Aは、中心人物の心情を想像することができるが、叙述を基に心情を捉えることができない。
- ・児童Aは、全体場で考えを意欲的に表現することが少なく、自分の考えに自信がない。



<本単元で願う姿>

- ・中心人物の気持ちを表す言葉を追い続けることで、中心人物の変化を読み取ることができる。
- ・考えに根拠をもつことや作者の目線を考えることで、対話活動に価値を見だし表現できる。

6 単元構想

本単元を以下のように構想し、実践を行った。(10時間完了)

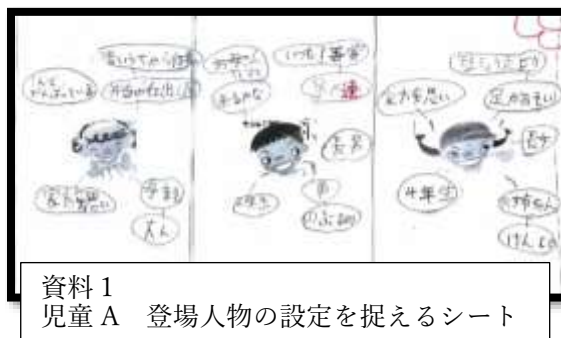
	学習の流れ (: 学習課題 ・ 児童の考え)	○具体的な手だて
出 あ い、 つ か む	物語の構成を確かめよう①	○「こわれた千の楽器」を例に山場に注目できるようにする。
	〔単元を貫く課題(問い)意識〕 のぶよの感情が大きく変化したところを見つけよう	
	登場人物について考えよう②	○全文を読んで、登場人物の3人について設定を確認する。
	分からない言葉の意味を調べよう③	
考 え、 深 め る	第一場面の、のぶよの気持ちについて考えよう④ ・「のそのそ」という言葉から、足が遅い「のぶよ」は、運動会に行きたくないという気持ちになっていると思う。 ・「ん…たぶんね」というところから、お母ちゃんが間に合わないかと思っているけど、けんじを悲しませないようにしようとはっきり言わなかったと思う。	○学習課題を文中の叙述を根拠にして考えるよう促す。 ○教科書から中心人物の気持ち分かる言葉と中心人物の気持ちを付箋に書くようにする。気持ちの変化を可視化するために、気持ちの位置を「・(点)」で表現するように伝える。
	第二場面の、のぶよの気持ちについて考えよう⑤ ・のぶよはお母ちゃんとけんじが言い合う場面に困ってい	

	るから、気持ちは、下がっていると思う。 ・箸の袋をぎゅっと握ってけんじに伝えようと追いかけたとき、お母ちゃんの寂しさも感じて、気持ちがゆれていると思う。	
	第三場面の、のぶよの気持ちについて考えよう⑥	
	・「あ、もう走れない」のところで、のぶよの気持ちが今までで一番下がっていると思う。いろんな感情があったから。 ・「ラストという言葉が、こんなにほこらしく聞こえたことは、初めてだった。」とあるから、気持ちがプラスになっているのではないかと思った。	
	第四場面の、のぶよの気持ちについて考えよう⑦	
	・笑いながら走っているから、気持ちはプラスだと思う。 ・第三場面のときから、気持ちはハッピーのまま変わらないと思う。のぶよたちは笑いながら走っているから。	
	物語を振り返り、『走れ』の山場を見つけよう⑧	○気持ちの変化をみるために、全四場面の感情シートを1枚につなげ、感情の位置の点を線でつなげるようにする。 ○自信をもって発言するために、「のぶよ」の気持ちが最も変化したところと、理由をワークシートに書くように伝える。
	『走れ』の山場について考えよう⑨	
	・「もう、走れない」と思ったのぶよが二人の声を聞いて、「ぎゅんと足が出た」のところ。体が重かったのぶよが急に足が出て、走り出すから。	
まとめ、広げる	『走れ』の題名について考えよう⑩	○題名について考えることで、家族関係が前向きに変化したことを捉えることができるようにする。 ○本単元で学んだ事を、次単元での物語作りに生かすことを伝える。
	・第四場面に「走れ」という言葉がたくさん続いているね。 ・ただ走るだけでなく、家族みんなが仲よくなっていく前向きになった気持ちが入っていると思う。	
	「山場のある物語を書こう」(次単元)	

7 授業実践と考察

(1)「走れ」との出会い、つかむ 【第1～2時】

第1時は、「山場」という言葉について学習した。「山場」とは、物語で中心人物の心情が最も大きく変化するところである。4月に学習した「こわれた千の楽器」を例にして、山場はどこであるかを考えた。児童Aは、すぐに教科書に線を引く様子が見られた。グループの話し合いでは、線を引いた楽器たちが協力して演奏し喜んだ台詞について発言していた。全体の話し合いで、友達の意見を聞いた後、山場の意味を再確認すると「いや、できるかもしれない。いやいやきっとできる」の意見に賛成の合図を出し、考えが変化している姿が見られた。



資料1
児童A 登場人物の設定を捉えるシート

第2時は、登場人物である、「のぶよ」「けんじ」「お母ちゃん」の3人の設定を捉えるために、登場人物の情報をマッピングのように表すことができるワークシートを使い、自分の考えを書いた。教師が性格について考えるように伝えると、「家族思い」「やさしい」などを書き加えることができた。話し合いでは、叙述を基に表現できるように、理由を含めて話をするよう促した。児童Aは、根拠となる文に線を引きながら、登場人物の情報や性格などをワークシートに書き込むことができた（前頁資料1）。

（2）中心人物「のぶよ」の心情を読み取る【第4～7時】

第4時では、中心人物が誰であることを確認し、これから「のぶよ」の気持ちの変化を追っていくことを共通理解した。感情シートと付箋を配ると、児童は、「何するの」「この付箋の使い方は何」と興味をもっている様子であった。感情シートとは、「のぶよ」に関わる描写に含まれる「言葉」と、その「言葉」から分かる「のぶよ」の気持ちを付箋に書き、シートに貼っていくものである（資料2）。まず教師が、「ゆううつ」という言葉から、「運動会がいやだなあ」というのぶよの気持ちを示した。考えることが難しい児童に対しては、気持ちが分かる言葉をカードにし、いくつか黒板に貼り、その言葉を参考にして取り組めるようにした。

児童Aは、感情シートの書き方について理解し、すぐに取り組んだ。第一場面で着目した言葉を10枚の付箋に書いて貼ることができた。全体の話し合いで「のそのそ」という言葉に着目している友達の意見に付け足して、自分から発言することができた（資料3）。気持ちの示す「・（点）」に注目すると、負の気持ちを示し、変化はないと捉えたことが分かる。児童A以外の児童も全体の話し合いを通して「のぶよ」の運動会への暗い、負の気持ちを読み取ることができた。



資料2
児童A 感情シート

資料3 第一場面話し合いの一部抜粋

C1：私は、「のそのそ」という言葉から、いやだなというのぶよの気持ちが分かりました。なぜか言うと、P64の2行目に「足がおそい」と書いてあるからです。

A：C1さんに付け足して、運動会に行きたくないと思っています。どうしてかというのと、のぶよは、去年の運動会でびりまちがいなしというくらい足が遅いということが分かったからです。

第5時では、第二場面のけんじとお母ちゃんの二人のやりとりに意見が集中し、「のぶよ」の気持ちを考えた。児童Aは、お母ちゃんが準備してくれた割りばしをぎゅっとにぎった注目し、お母ちゃんは自分たちのことを考えてくれている、けんじに伝えて二人の関係をどうにかしなくてはという「のぶよ」の気持ちを捉えた（資料4）。

資料5 第二場面話し合いの一部抜粋

C2：「どんどん進んで」で、早く進んでほしくないという気持ちがあると思いました。走るのが遅いからだと思います。

C3：C2さんのところで、2年生の短距離走が来てほしくないと思っていて、理由は、去年お母ちゃんが来なかったことで、おおべそをかくくらいのが起こっていたからです。

C4：僕は、C3さんとは少し違って、4年生の短距離だと思います。なぜなら、びりまちがいなしだからです。

A：私も同じところで、私は、両方だと思います。けんじをなぐさめるのと、びりまちがいなしの短距離走のことを思い出してしまうからだと思います。

話し合いでは、C3とC4の二つの意見に集中した。児童Aは、二人の意見



資料4
児童A 感情シート

を聞き、自分の考えを述べることができた（前頁資料5）。対話活動に価値を見出し、意欲的に発言するようになった。

第6時では第三場面の、のぶよの短距離走の叙述から気持ちを考えた。児童Aは、多くの言葉に着目して気持ちを考え、走る前の不安な気持ちと、走りきった明るい気持ちを捉えることができた（資料6）。「思わずぎゅんと足が出た」ところから、「うれしい。わたしだっていける。気持ちが軽くなった。足が速くなった気がした」と、この一文から詳しく気持ちを考えることができた。感情の「・（点）」の位置も変化をされていて、のぶよの気持ちの変化を読み取ることができているのが分かる。話し合いの中でも、中心人物「のぶよ」について、考えに根拠をもって発言をしていることから自信をもっていることが伺える（資料7）。

資料7 第三場面話し合いの一部抜粋

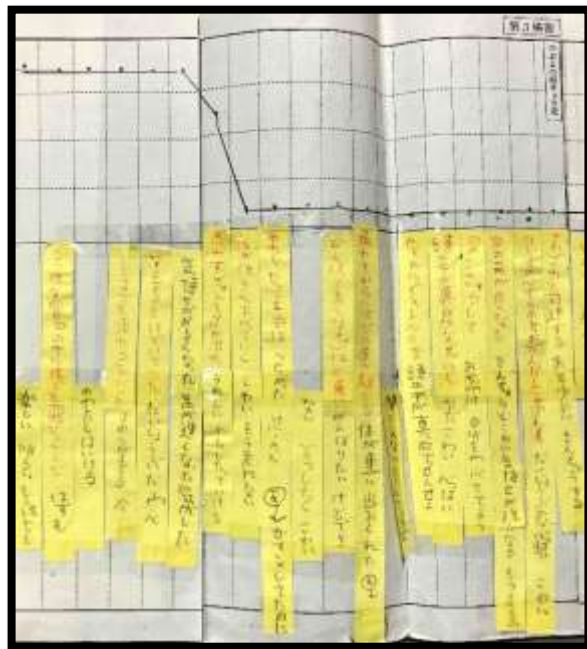
T：のぶよの足は、速くなったの？

C5：速くなったと思います。理由は、いろいろな思いがするするとほどけていったからです。

T：そうなの？

A：「思わずぎゅんと足が出た」のところで、走る前までは、体が重かったり、後ろへ下がったりしていたから、ここで前に進めた感じだからです。

C6：いや、僕は足の速さは、変わっていないと思います。気持ち的に、重かったけど、走れる気がしたって書いてあるから、実際は速くなっていないと思います。



資料6
児童A 感情シート

第7時の第四場面では、走り終えた後の「のぶよ」の気持ちを考えた。話し合いの中で、第二場面のお母ちゃんの笑顔が消えたことや第三場面の体からみついていたいろいろな思いがするするとほどけていったことを根拠に発言する児童が現れてきた。これは、場面ごとに読み取りをしているが、全場面の叙述を結び付けて、ほかの場面から根拠を引っ張って考えることができたからである。このころになると児童Aは、前後の流れを考えて、けんじがどのように「へたくそ」と言ったのかを捉えた（資料8）。また、友達の意見に賛成の合図を出したり、声に出して反応したりすることが増え、話し合いの価値に気付いて前向きに取り組む様子が見られた。感情の「・（点）」の位置からも「のぶよ」の気持ちが第三場面からずっと明るい気持ちになっていることから、言葉に着目して登場人物の気持ちの変化を捉えることができたと考えられる。（資料9）。

資料8 第四場面話し合いの一部抜粋

T：「へたくそ」って怒って言ったの？

A：怒ってはいなくて じょうだんで言ったと思います。

C7：さんせい！

C8：だからのぶよの気持ちは上がったままだと思う。

A：さんせい！



資料9
児童A 感情シート

（3）「走れ」の山場について考える【第8～9時】

第8時では、全四場面の「感情シート」をつなげ、この物語の「のぶよ」の気持ちを俯瞰して見られるようにした。児童は、つなげたシートを見て、「長い！」とこれまでの学習の積み重ねを喜ぶ姿

や、「三場面の気持ちが上がっている！」と、すでに物語の山場を探そうとしている意欲的な姿を見せる児童もいた。全体場で、「走れ」の物語の山場はどこなのかを問うと、感情シートを見返し、感情の点と点が急な角度でつながる第三場面を「山場」として考えることとなった。児童は、第三場面の中で「のぶよ」の気持ちが最も大きく変化したところはどこかを考えさせ、ワークシートにまとめるように促した。児童 A は、感情シートの気持ちの点の位置の変化を見たり、掲示してある今までの板書を眺めたりしながら考え、「姉ちゃん行けっ！のぶよ行けっ！思わずぎゅんと足が出た」という言葉を選んだ（資料 10）。

第 9 時では、一人一人が考えた最も変化したところを話し合った。児童 A は、理由を発言するとき、「いやな気持ちでいっぱいだったけど、気持ちが軽くなったからです」と発言した。授業の後半で、教師は、作者が山場を盛り上げるためにどのような工夫をしたのかを問いかけた。まず、グループ内で話し合う時間を設けた。児童 A は、グループのみんなと積極的に話し合った。全体の話し合いになると、児童 A のグループは、個人で発表している中で、グループ 4 人で発言した。「去年のいやなエピソードを語ること」「けんじがだっとかげだしたところのあとに気持ちが下がること」「お母ちゃん笑顔が消えたという表現」「お母ちゃんが運動会に来てくれるよねと期待していたが、来なかったこと」の 4 つが、山場をより盛り上げるための言葉として、全員が納得して出した答えだった。全四場面の中心人物の気持ちを追い続けてきたからこそ深い読みにつながったと考えられる（資料 11）。

資料 11 山場をより盛り上げる工夫 クラスの意見

- ・ぎゅんと ・「！」 ・思わず
- ・体が重いなどマイナスだったのが、いきなりプラスになる
- ・最初は暗かったのに、ポジティブな言葉なる
- ・「走れ！そのまんま走れ！」題名につづく

（4）「走れ」の題名について考える【第 10 時】

「走れ」という題名について改めて考えた。最初から最後まで、走ることにすることがたくさんだったことや、「のぶよ」として走ることが、いやなものから、よい思い出となっていったからだ考える児童がいた。児童 A は、第四場面にたくさん「走れ」という言葉があるから、この題名にしたと考えていた。話し合いの最後には、「のぶよ」の家族が仲良くなったのは、のぶよへの「走れ！」という叙述からだから、題名が「走れ」だと考えを更新した児童もいた。物語全体を見て、言葉を基に考えを述べることができた。

資料 10
児童 A 山場についての
ワークシート

8 成果・課題

（1）研究の成果

今回の実践を終え、3つの成果が挙げられる。1つ目は、感情シートを活用することで、叙述を基に中心人物の気持ちの考えを書くことができるようになった。2つ目は、考えをまとめるワークシートを用いることで、根拠となる文を示しながら意見を伝えることができ、自分の考えに自信をもって伝えることができる児童が増えた。3つ目は、筆者の立場で山場をより盛り上げる言葉の使い方について考える場を設けたことで物語全体を俯瞰して考えることができた。

（2）今後の課題

児童は、自分の考えをもつことはできたが、読み取りの深さに差が出てしまった。理解に時間がかかる児童のために、前時の振り返りをする時間とって考える土台をそろえることや、ペアで話し合う時間を設けることで、自分の考えを整理して話す時間を作ることをしていきたい。